

地域の新しい力に 地域おこし協力隊・ アグリスタート研修生 激励会

大山町では、4月1日から新たに農業部門4名、観光部門2名の地域おこし協力隊を採用しました。また2月から、アグリスタート研修生1名も農業研修を行っています。

4月1日に、地域おこし協力隊とアグリスタート研修生の合同激励会が、保健福祉センターなわで開かれました。

激励会では町長をはじめ、来賓の（公財）鳥取県農業農村担い手育成機構の上場重俊理事長や、大山町アグリマイスター協議会の米澤誠一会長、大山観光局の足立敏雄会長からも、期待や激励の言葉をいただき、協力隊員はこれから始まる活動へのやる気を一層高めていきました。

また、農業部門で協力隊の「師匠」として指導にあたる大山町アグリマイスターのみ



なさん、大山観光局局长も出席し、今後に向けてのつながりを作るいい機会となりました。

出席者からは「元気な若者が集まり、とてもよい会だった」という声が多く聞かれました。

地域おこし協力隊は、それぞれの分野で地域活性化のために活動を行います。これからの活動にぜひご注目ください。

（地域おこし協力隊の紹介を10ページに掲載しています。あわせてご覧ください）

名和スポーツランドに 「少年用サッカーゴール」

4月10日、株式会社所子建設が、名和スポーツランドへ少年用サッカーゴール1組を寄贈してくださいました。

これは、同社の創立50周年を記念して、大山町へ寄贈くださったものです。

代表取締役の中川郁夫さんは「地域子どもたちに使ってもらい、大山町から世界に羽ばたくようなサッカー選手が育つてほしい」と話していました。



▶ 目録を手渡す中川代表取締役（右から2人目）

学ぶ楽しさつながる喜び

「大山カレッジ」

今年は28人で
スタート!

大山町オリジナルの大人の学校「大山カレッジ」の入学式が、4月16日（木）に山中学校で行われました。

開校8年目になる「大山カレッジ」ですが、仲間と繋がる楽しさと頭を使う爽快感から入学希望者が年々増え、今年度は新入生5人を含むこれまで最高の28人が入学しました。

式では、大山カレッジ校長の手島孝人中山公民館長が、入学生の名前を一人ひとり読み上げ、「目標を持って学習に臨んでください。そして、学習を通じ仲間との交流の場を広げ、充実した学校生活になるよう期待します」と式辞を述べた後、小西副町長をはじめ来賓の方々から祝福の言



▲校舎をバックに記念撮影

葉を受けました。

また、新入生を代表して砂流育子さんが「学ぶことは心の財産、心の栄養だと思えます。共に学ぶ人たちの絆を大切に、これからの人生をゆつくり楽しみたい。生き生きと学ぶ姿勢が、次の世代へのプレゼントであると思います」とあいさつしました。

山中中学校で学習することを基本として、山中中学校文化祭や大山町総合文化祭への参加、自然観察会、修学旅行など、さまざまな学習に取り組みます。